

# 名戸ヶ谷ビオトープを育てる会だより

第15号

2005年10月1日

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://homepage3.nifty.com/biotope/index.html>

発行責任者： 篠崎 将

Tel/Fax: 04-7173-6353

## 今年も豊作

## 名戸ヶ谷小稲刈り手際よく



雨で延期された稲刈りは、9月9日(金)午前9時から名戸ヶ谷小児童5・6年生94名、白井教頭を含む教職員6名、ビオトープ会員14名、環境保全課3名、という大勢の参加の下でにぎやかに行われました。旧職員の阿部先生も応援に駆けつけました。作業開始前に行われた「コココーラ環境教育賞」受賞式のためにビオトープを訪れた2名の会社関係者も熱心に児童たちの稲刈り作業風景を写真に収めていました。

増田さんから作業要領の説明を受けたあと、9時15分に作業開始。「ぬるーとして気持ち悪るー」「ズボンが泥で落ちちゃうー」「蛙がいたー」などの児童の歓声に混じって、「ほら、だまって立ってないで運んで!」「もっとしっかり束ねて!」など、先生方やビオトープ会員からの指導の声が飛び交っていました。児童のパワーはすごいのですが、刈ることが楽しくて、束ね作業や運搬には反省点もあったようです。来年は脱穀作業のことも考えて、事前準備をふくめて計画していきましょう。今年の稲刈り作業そのものは昨年より手際よく進み、11時少し過ぎに終了。稲束は児童たちが2台のリヤカーで運び、名戸小のプールのフェンスに掛けましたが、プールの外への入り口では数人の児童たちがご苦労にもゆるい稲束の束ね直し作業に専念していました。(小笠原 智・広報編集部)

### ひとくちインタビュー

- いつもはできない体験が出来て楽しかった (5年 広瀬量平)
- ザリガニやアカガエルがいっぱいいた (5年 杉本麻由美)
- 束ね方はうまくできた (6年 山口恵理菜)
- 小学校最後の田圃に入れて楽しかった (6年 清宮慎之介)
- 田植えでは入れなかった田圃に稲刈りで入れてよかった (5年 荒木 毅)
- 鎌を使った稲刈りは初めてだったけど、うまくできてよかった (5年 村上 紀)



まだ仕事が残っていた!

稲を刈ったり束ねたり、とても楽しかった。プールに干されている稲はさわさわと音がして、稲もとても重く、5月の田植えの時のとっても小さな稲とはまったく違ってすごく大きくなっていたので、びっくりしました。稲も自分の力でここまで育ててきたので、すごいな、と思いました (5年 永野杏奈)

最初に目についたのは虫でした。私は虫が嫌いです。でも、バッタやカマキリがいっぱいはねているのを見ると、みんな生きているんだなと感じました。最初に驚いたことは、5月に植えたあんな小さな苗がとても太くなり背丈が私の腰まで伸びていたことです。服は泥だらけになったけど、稲刈りでは思ったよりうまく鎌を使ったと思います。わらで稲を束ねるのはうまくできませんでしたが、みんなの力でたくさんの稲束ができ、プールサイドに干しました。餅つきが楽しみです。疲れたけど楽しい稲刈りでした。(5年 大竹詩織)



## 水田稲作部会

今年の水田稲作部会の稲刈りは、9月9日（金）に行われた名戸ヶ谷小学校の稲刈り作業の指導・手伝いを兼ねて、この日に終了しました。大勢の5・6年生を前に、鎌の使い方から稲の束ね方まで、懇切に指導して下さいました増田さん、本当に有難うございました。

また、小学生による稲刈り作業の中に入り、一緒に泥んこになりながら、手にとり足をとるように指導して頂いた水田稲作部会・不耕起部会のみなさん、お疲れさまでした。多少トラ刈りが残った田圃に苦笑しながら、丁寧に散髪して下さいました会員のみなさんも、ご苦労さまでした。



カマの扱いも手馴れて



炎天下でのネット張り

尚、炎天下でしたが、稲刈りに先立つ8月13日、水田稲作部会は不耕起部会と合同で、水田稲作・不耕起の両方の田圃に防雀ネットを張りました。

(小笠原 智・広報編集部)



## 不耕起稲作部会

化学肥料・農薬ゼロで3年目の秋です。周囲の溝堀で水田面積は減少しました。また、イネミズゾウムシの発生で心配でしたが、収穫も品質もよい米ができました。

- ・ 7月24日 初穂発見
- ・ 8月12日 水田の水落とし(周囲の溝の効果大で、乾燥割れ)ができました)
- ・ 8月13日 防雀ネット張り(水田稲作部会と合同。昨年の経験が活きました)
- ・ 9月10・11日 稲刈り(台風14号などがありましたが、今年は稲の倒れなし)
- ・ 9月23日 脱穀(ビオトープ看板裏手の広場利用。幸い快晴、24日は大雨となりました)
- ・ 9月27日 天日干し足場パイプ解体、水田に通水



今年は稲の倒れもなく



太陽の恵みで甘くなれ

今年初めて不耕起部会では小学生と一緒に田植え等の作業をしましたが、これからは作業工程からコメの文化、コメ作りの心構えを伝えたい。一粒の米が一年で2000粒になります。その米をたべて人間は生きているのです。一粒一粒を大切に扱いたい。(才川 寿麿)

# 秋晴れの下で脱穀

## もち米の部

9月21日(火)、名戸ヶ谷小学校校庭にビオトープ会員諸氏12名が参集。事前準備としてシート敷設・脱穀機・唐箕等の設置を行った。その後柏市環境保全課員も来校。9時30分、名戸ヶ谷小5年生が集合。事前説明を受けた後、全員で稲束運搬、4名1班8編成で脱穀作業開始。「バリバリ」音と共に顔面に飛んでくる籾にビックリ。唐箕担当は風力と開閉口の調整に苦しみながら、コソを挿んで楽しんでた。途中一年生の見学もあり、上級生の作業を興味深く観察しながら、自分たちも手伝いたいとの気持ちが顔に出ている。順次交替しながら作業が進むが、昼休みとなったため、残工程をビオトープ会員が引き受け昼食もとらずに作業を続けて13時30分に完了した。みなさんお疲れの様子でした！



## うるち米の部



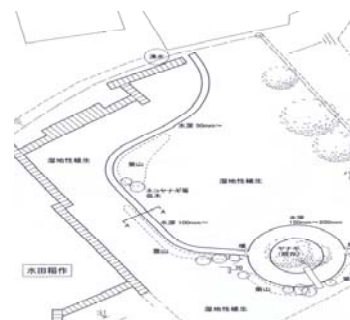
9月23日(金)、会員20名が8時30分から名戸ヶ谷ビオトープ広場にて作業開始。3年目となるとベテラン諸氏の手馴れた手順により、小気味よいスピードで作業も捗り、途中2度の休憩を挟みながら、13時30分に完了しました。

今回の作業では毎度苦労する「分離しない籾」の選別に強力な助っ人が登場しました。鉄製の篩(建築用足場)です。これが大当たり！お茶の手もみ要領で大量の「分離しない籾」を一気に解決した優れたものです。山名さんが自宅からウンウンいしながら持ち込んでくれました。

感謝、感謝！(窪田孝志)

## ホタル部会

8月27日(土)ホタル部会及び他部会のビオトープを育てる会会員有志により、今後のビオトープのホタルエリアの整備計画について話し合いました。数年前にはまだ僅かに確認することができたヘイケボタルも現在では絶えてしまった状態であることを確認し、今後の計画では、柏地域に自生するホタルを種に、既存の固体群を守りつつ幼虫を飼育し、増やし、放流していくこと。年々都市化が進み、ホタルにとってより棲みづらい環境になっていくビオトープ周辺の、特に人工的な光の影響を抑えるための環境整備を、ビオトープ全体との整合性などを考慮して行っていくことに関して意見交換をし、ホタル部会としてのビオトープにおけるヘイケボタル再生計画案を作成しました。(右上図参照)



今後ともみなさんの協力のもと、名戸ヶ谷のシンボルとしてホタルを楽しむことができるビオトープをつくっていききたいと思います。(松清智洋)

## かしわ環境ステーション開設

柏市では今年4月に稼働を始めた第二清掃工場の中に環境の学習や研究の場、環境保全活動を行う市民・団体の交流の場として環境学習研究施設を整備しました。運営は環境の各分野で活動している市民、市民団体、学識者などで組織される「かしわ環境ステーション運営協議会」に委ねていきます。同運営協議会では企画・運営に携わっていただく会

### 8月19日の設立総会

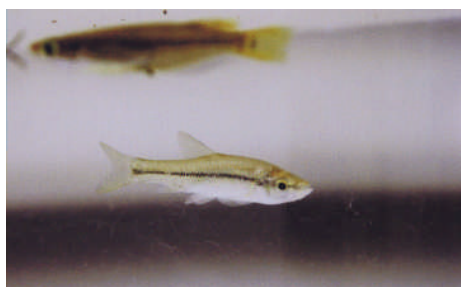
員を募集中です。皆様の参加をお待ちしています。また、かしわ環境ステーションのオープン記念事業を行います。皆さんもどうぞ足を運んでみてください。 とき: 10月2日(日) 午前10時半~午後5時

内容: 基調講演、環境活動パネル展、交流サロン (柏市環境保全課 松山記)



# ビオトープの生きもの

## モツゴ コイ科 一般保護動物



全長 8cm.になる。口が受け口で小さいのでクチボソとも呼ばれる。平野部の浅い湖沼地、用水など、止水域や小川にも住む。底生動物や付着藻類などを食べる。4~7月にアシの茎や石などに産卵する。従来は関東以西に生息していたが、今は全国に広がっている。千葉県では全域に見られたが、近年生息地の開発で少なくなってきた。手賀沼周辺では食用に供されていたという。現在、一般保護動物に指定され、保護されている。

## ギンブナ コイ科 要保護動物



全長 10~30cm.体色は背が緑褐色。腹部が銀白色で背びれの基底部が短い。尾びれのつけ根部分は太めである。流れのゆるい川や池の水草の茂る底部に住み、水生動物や藻類など雑食である。3~6月に他のフナ類と同様に岸边や細い流れのところで産卵する。体型、体色共に地域的な変化が大きい。関東以北に住む。千葉県では全域に見られるが、数はかなり少なくなっており、モツゴより重要度の高い要保護動物である。(篠崎 将)

## 手賀沼流域フォーラム参加報告



10月1日(土)、9:00~16:00、千葉県我孫子市にある手賀沼親水広場で「第9回手賀沼流域フォーラム」が開催され、10時半から始まった小学校等による事例発表では柏を代表して高田小学校が発表しました。また、名戸ヶ谷ビオトープを育てる会もパネル



展示で参加した市民団体によるパネル展示(広場の中庭)では、「ビオトープ

を育てる会」を代表して松清さんが会の歴史・活動を紹介しました。ビオトープのパネルは柏市環境保全課のパネル(柏市内の湧水紹介)、下田の森の里山紹介パネルと並んで展示されました。午後からは基調講演「手賀沼の形と戦前までの干拓」や手賀沼船上見学などの各種イベントもあり、「ビオトープを育てる会」からは篠崎会長を含めて3名が参加しました(広報編集部)

## お知らせ ーかしわ環境ステーション オープン記念イベント

日時: 10月2日 10:30~16:30 各環境団体のパネル展示(「名戸ヶ谷ビオトープを育てる会」も参加)

場所: かしわ環境ステーション(南部クリーンセンター3F)(南増尾56-2)

記念講演(13:30~) 事例発表(中学校・環境市民団体) センター見学会 交流会

編集後記: 晴天に恵まれ、稲刈り・脱穀も無事に終わりました。水田稲作のモチ米は今年も豊作。収穫祭ではつきたての美味しいお餅を期待できるでしょう。不耕起稲作のウルチ米は田圃の面積が減った分若干昨年より収量は減ったけれど、去年のように台風による稲の倒れがなかったのは幸いでした。さて、味の方は如何? 10月16日(日)、ビオトープでの収穫祭を楽しみに。 広報編集部(春山)